



長野県 県民文化部 こども・家庭課、日本自然保育学会 保育環境WG
「信州型自然保育(やまほいく)認定園」アンケート調査(令和7年調査)
結果概要



1. 背景と目的

「信州型自然保育(やまほいく)認定制度」が創設されて10周年を迎えるに際して、認定園の子どもや保育者・保護者・地域社会等への影響や実態、保育環境の状況等の実態を把握するために、本調査を実施した。

2. 調査概要

- ①実施主体 長野県 県民文化部 こども・家庭課¹
日本自然保育学会 実践・研究推進委員会
保育環境ワーキンググループ²
- ②調査対象 (ア) 母集団 信州型自然保育認定園
(イ) 標本数 313 園
- ③調査時期 令和7年2～3月
- ④調査方法 E-mailによるアンケート調査
- ⑤有効回答数 276 園 (回収率88%)
- ⑥調査内容 (1). 現在の園の状況(子ども・保育者・保護者の様子、地域社会・園の魅力向上の状況)
(2). 園庭や園周辺の自然環境等の「保育環境」の状況
(3). 質の向上に向けた研修の実施状況
(4). 認定制度について

3. 調査結果(単純集計)

(1). 現在の園の状況

① 子どもの様子

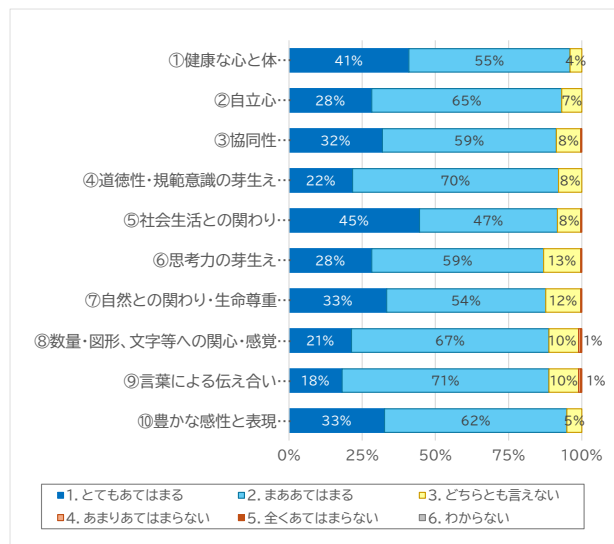
現在の園の状況のうち、子どもの様子について、幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」に対応させた質問項目(図表1-1-1)を設定して、それぞれの状況について質問した。

その結果、いずれの項目も約9割程度の認定園が「とてもあてはまる」「あてはまる」と回答していた。(図表1-1-2)

特に、「⑤社会生活との関わり」、「①健康な心と体」が「とてもあてはまる」が4割を越え、「⑦自然との関わり・生命の尊重」、「⑩豊かな感性と表現」、「③協同性」が3割を越える結果となった。

図表 1-1-1 質問項目(子どもの様子)

カテゴリ	子どもの様子
①健康な心と体	自然の中で主体的に体を動かす様々な活動に挑戦し、体の諸部位を十分に動かしている
②自立心	いろいろな活動や遊びにおいて自分の力で最後までやり遂げ、満足感や達成感をもっている
③協同性	いろいろな友達と積極的に関わり、友達の思いや考えなどを感じながら行動している
④道徳性・規範意識の芽生え	友達や周りの人の気持ちを理解し、思いやりをもって接している
⑤社会生活との関わり	四季折々、地域や自然にふれあうことで、自分たちの住む地域に一層親しみを感じている
⑥思考力の芽生え	身近な物や用具などの特性や仕組みを生かして、楽しみながら工夫して使っている
⑦自然との関わり・生命尊重	自然に出会い、感動する体験を通じて、自然の大きさや不思議さを感じ、畏敬の念をもっている
⑧数量・図形、文字等への関心・感覚	遊びの中で数量、長短、文字などに関心をもち、数えたり、比べたり、使ってみたりしている
⑨言葉による伝え合い	自分の思いや考えなどを相手にわかるように話して、言葉を通して友達等と心を通わせている
⑩豊かな感性と表現	自然の中で美しいものや心動かす出来事に触れる中で、感じたことや考えたことを楽しく表現している



図表 1-1-2 子どもの様子(SA)

②保育者の様子

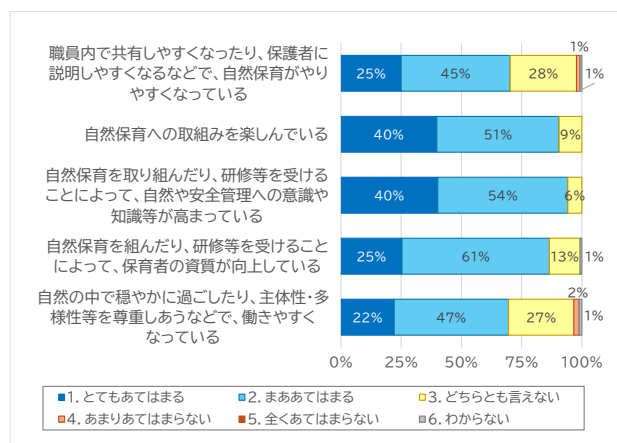
現在の保育者の様子としては、「自然保育への取組みを楽しんでいる」、「自然保育を取り組んだり、研修等を受けることによって、自然や安全管理への意識や知識等が

¹ [連絡先] 長野県 生活文化部 こども・家庭課 家庭支援係
電話：026-235-7147 (直通)
026-232-0111 (代表) (内線 2357)
E-mail：katei-shien@pref.nagano.lg.jp

² [担当] 量的調査小グループ (木俣 知大 ((一社)東京学芸大 Explay ground 推進機構)、菊池 稔 (名寄市立大学)、村上 光 (名古屋大学大学院)、石田 佳織 (筑波大学大学院)、北澤 明子 (日本女子体育大学)、藤井 徳子 (金沢学院大学))

高まっている」は、約4割の認定園が「とてもあてはまる」と回答しており、「あてはまる」を含めると約9割の認定園で効果が見られた。

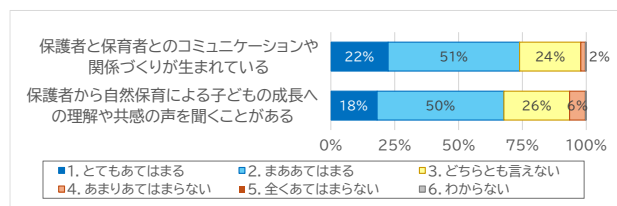
また、約9割の認定園が「自然保育を組んだり、研修等を受けることによって、保育者の資質が向上している」、約7割の認定園が「職員内で共有しやすくなったり、保護者に説明しやすくなるなどで、自然保育がやりやすくなっている」、「自然の中で穏やかに過ごしたり、主体性・多様性等を尊重しあうなどで、働きやすくなっている」という傾向にあった。(図表 1-2)



図表 1-2 保育者の様子(SA)

③ 保護者の様子

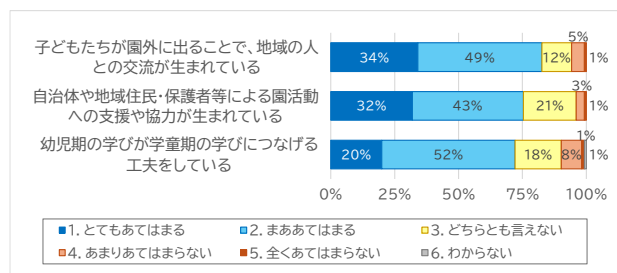
保護者の様子は、約7割の認定園が「保護者と保育者とのコミュニケーションや関係づくりが生まれている」、「保護者から自然保育による子どもの成長への理解や共感の声を聞くことがある」と回答していた。(図表 1-3)



図表 1-3 保護者の様子(SA)

④ 地域とのかかわりの状況

地域とのかかわりについては、約8割の認定園で「子どもたちが園外に出ることで、地域の人との交流が生まれている」、「自治体や地域住民・保護者等による園活動への支援や協力が生まれている」、「幼児期の学びが学童期の学びにつなげる工夫をしている」という傾向にあった。(図表 1-4)



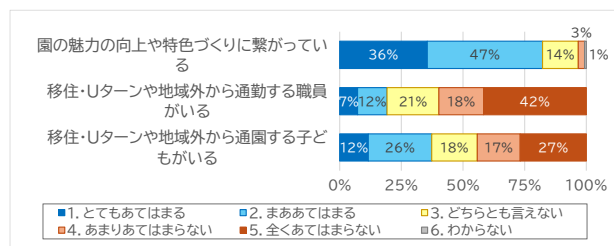
図表 1-4 地域とのかかわりの状況(SA)

への支援や協力が生まれている」という傾向にあり、約7割の認定園で「幼児期の学びが学童期の学びにつなげる工夫をしている」という傾向にあった。(図表 1-4)

⑤ 園の魅力向上の状況

園の魅力向上の状況は、「園の魅力の向上や特色づくりに繋がっている」は、約4割の認定園が「とてもあてはまる」と回答しており、「あてはまる」を含めると8割の認定園が魅力の向上・特色づくりに効果があると認識していた。

「移住・Uターンや地域外から通園する子ども」は約4割の認定園で、「移住・Uターンや地域外から通勤する職員」は約2割の認定園で見られた。(図表 1-5)

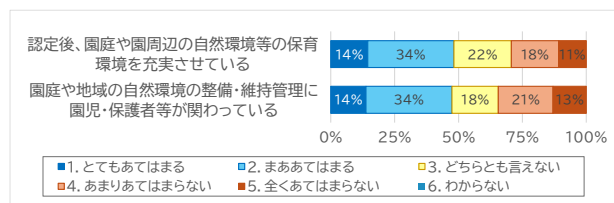


図表 1-5 園の魅力向上の状況(SA)

(2) 保育環境の状況

① 保育環境の状況

保育環境の状況については、約5割の園が「認定後、園庭や園周辺の自然環境等の保育環境を充実させている」、「園庭や地域の自然環境の整備・維持管理に園児・保護者等が関わっている」という状況にあった。(図表 2-1)



図表 2-1 保育環境の状況(SA)

② 園庭の構成要素

園庭の構成要素は、ほぼ全ての認定園で「土や砂遊び場」、「菜園や花壇」が見られた。

約9割の認定園で「遊具」、「ひらけたスペース」が、約8割の認定園で「水遊び場」、「道具や素材置き場」、「日よけ」、「芝生地や雑草地」、「築山や斜面」が見られた。

なお、約2割の認定園は、園庭に「樹林・森林・里山」や「焚き火場・かまど」が見られた。(図表 2-2)。

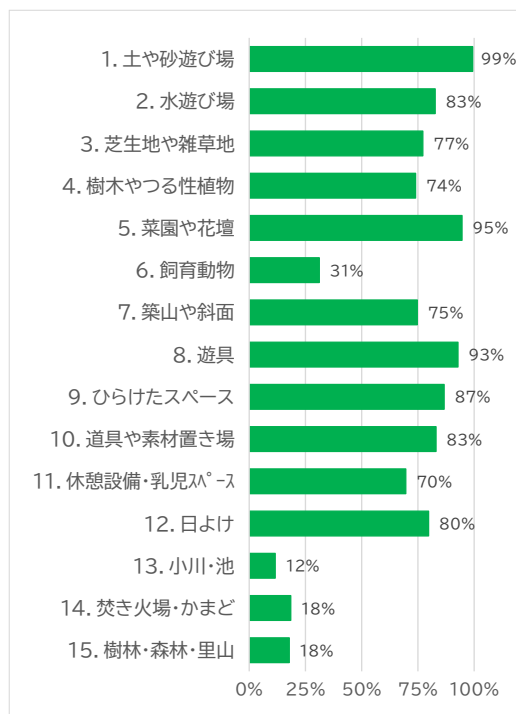
③ 活用している園周辺の自然環境

活用している園周辺の自然環境のうち、(A) 所有地・借受地としては、約6割の認定園が「畑・田んぼ・果樹園」、約5割の認定園が「緑地・草地」、約3割の認定園

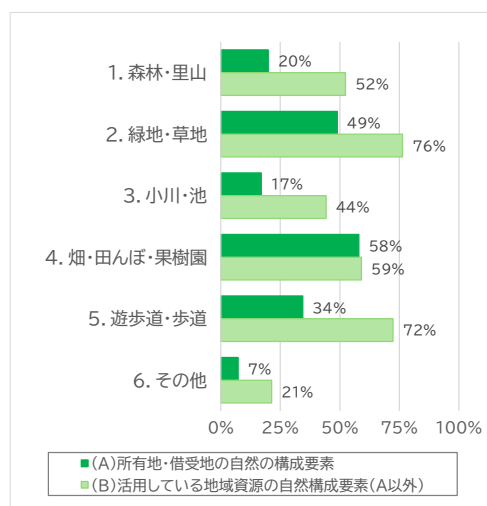
が「遊歩道・歩道」を有していた。

また、約2割の認定園が「森林・里山」、「小川・池」を所有・借受していた。

そして、半数以上の園が、所有地・借受地以外で「緑地・草地」、「遊歩道・歩道」、「畑・田んぼ・果樹園」、「森林・里山」を活用していた。(図表2-3)



図表 2-2 園庭の構成要素 (MA)

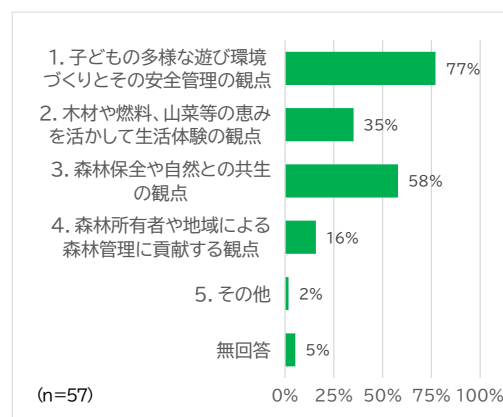


図表 2-3 活用している園周辺の自然環境(MA)

④ 所有地・借受地の「森林・里山」の整備の考え方

所有地・借受地の「森林・里山」の整備の考え方は、約8割の認定園が「子どもの多様な遊び環境づくりとその安全管理の観点」、約6割が「森林保全や自然との共生の観点」で整備していた。

他方、「木材や燃料、山菜等の恵みを活かして生活体験の観点」は約4割、「森林所有者や地域による森林管理に貢献する観点」は約2割の認定園で見られた。(図表2-4)

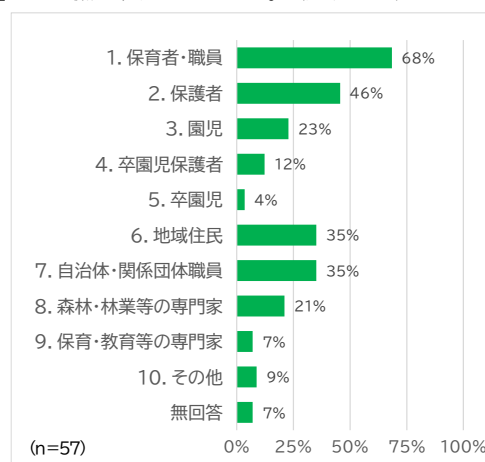


図表 2-4 「森林・里山」の整備の考え方(MA)

⑤ 所有地・借受地の「森林・里山」の整備への関与主体

所有地・借受地の「森林・里山」の維持管理・整備への関与主体は、「保育者・職員」が約7割と最も多く、次いで「保護者」が約5割、「地域住民」、「自治体・関係団体職員」が約4割となっていた。

他方、約2割の認定園で「園児」、「森林・林業等の専門家」が整備に関わっていた。(図表2-5)

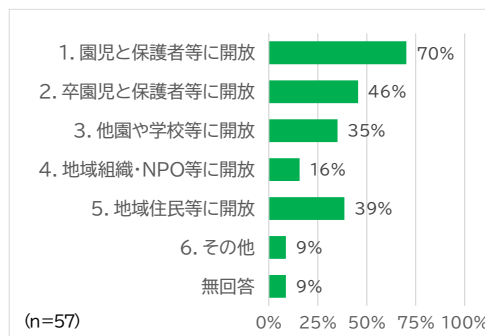


図表 2-5 「森林・里山」の整備への関与主体(MA)

⑥ 所有地・借受地の「森林・里山」の開放状況

所有地・借受地の「森林・里山」の開放状況は、約7割の認定園が「園児と保護者等に開放」、約5割の認定園が「卒園児と保護者等に開放」していた。

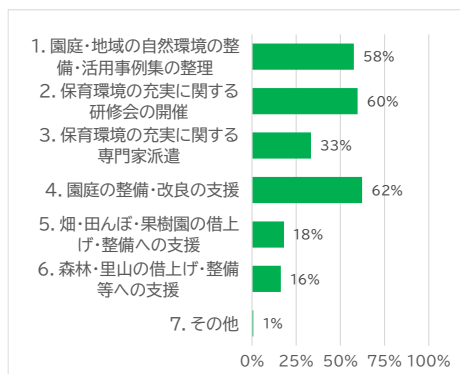
他方で、「地域住民等に開放」または「他園や学校等に開放」している認定園も約4割見られた。(図表2-6)



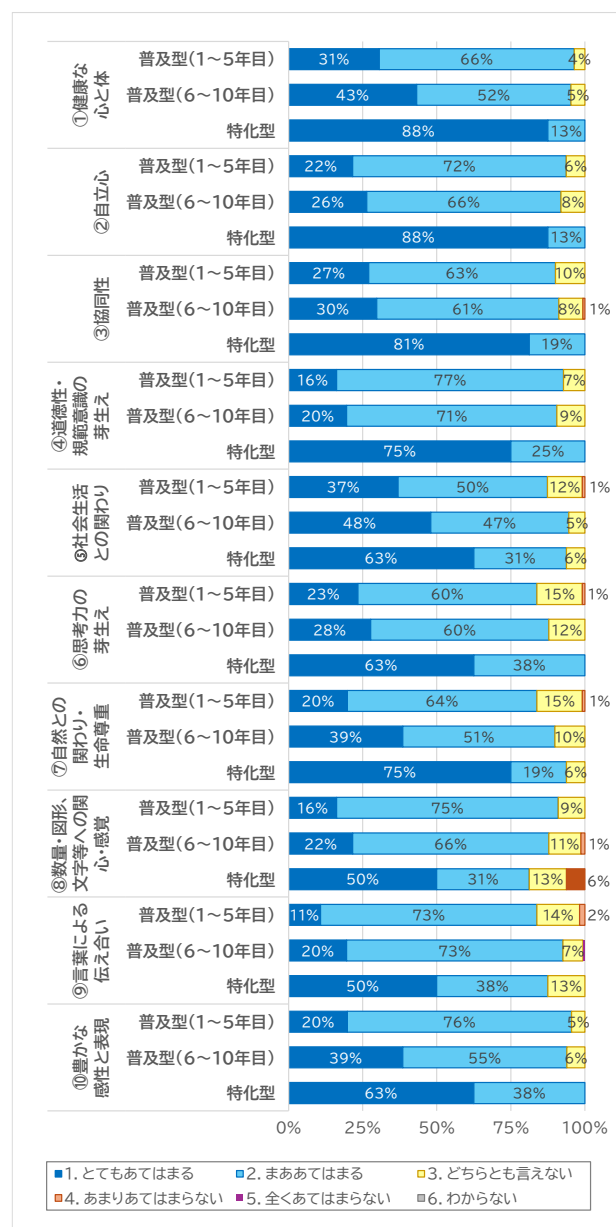
図表 2-6 「森林・里山」の開放状況(MA)

⑦ 希望する「保育環境」の充実の支援

今後の「保育環境」の充実にに向けて希望する支援は、約6割の認定園が「園庭の整備・改良の支援」、「保育環境の充実に関する研修会の開催」、「園庭・地域の自然環境の整備・活用事例集の整理」を求めている。(図表 2-7)



図表 2-7 希望する「保育環境」の充実の支援(MA)



図表 3-1 [クロス集計]子どもの様子(SA)

4. 調査結果 (クロス集計)

本項では、「信州型自然保育(やまほいく)認定園」について、「普及型(1~5年目)」「(n=111)」、「普及型(6~10年目)」「(n=148)」と「特化型」(n=16)を比較した。

(1). 現在の園の状況

① 子どもの様子

子どもの様子は、いずれの「10の姿」においても、「特化型」の認定園では「とてもあてはまる」が最も多く、次いで「普及型(5~10年目)」が多い傾向にあった。

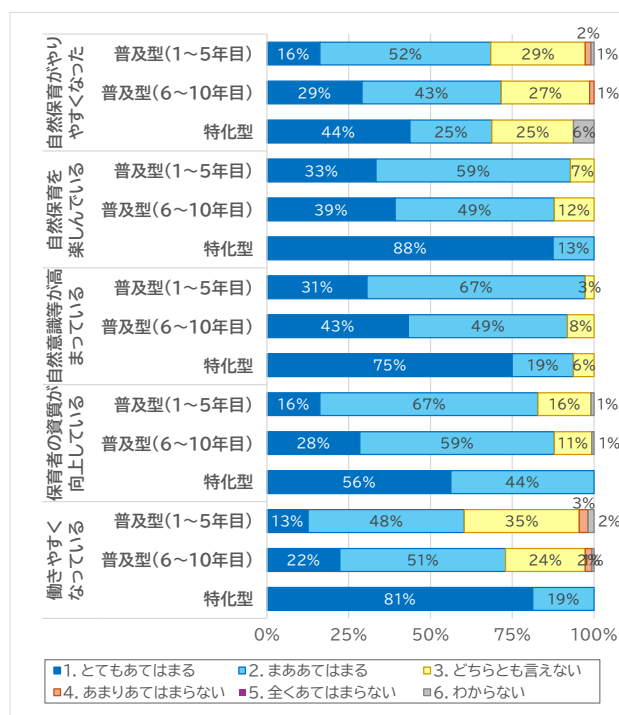
「⑤社会生活との関わり」については、各属性の差異が少ない傾向にあるとともに、「⑧数量・図形・文字等への関心・感覚」は、若干ではあるが「特化型園」が「あてはまらない」割合が多い傾向にあった。(図表 3-1)

②保育者の様子

保育者の様子も、いずれも「特化型」の認定園では「とてもあてはまる」が最も多く、次いで「普及型(5~10年目)」が多い傾向にあった。

また、「自然保育への取組みを楽しんでいる」、「(自然保育を取り組んだり、研修等を受けることによって)自然や安全管理への意識や知識等が高まっている」、「(自然の中で穏やかに過ごしたり、主体性・多様性等を尊重しあうなどで)働きやすくなっている」は、「特化型」で「とてもあてはまる」が多い傾向にあった。

特に、「働きやすくなっている」は、「普及型」は約6~7割があてはまるが、「特化型」は全認定園があてはまる傾向にあり、差異が顕著であった。(図表 3-2)

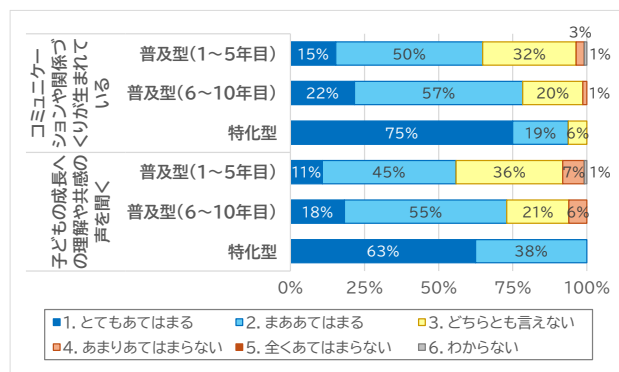


図表 3-2 [クロス集計]保育者の様子(SA)

③ 保護者の様子

保護者の様子も、いずれも「特化型」の認定園では「とてもあてはまる」が特に顕著に多く、「あてはまる」を含めるとほぼ全ての認定園で当てはまる傾向にあった。

そして、若干ではあるが、「普及型（1～5年目）」と比較すると「普及型（5～10年目）」があてはまる認定園が多い傾向にあった。（図表 3-3）

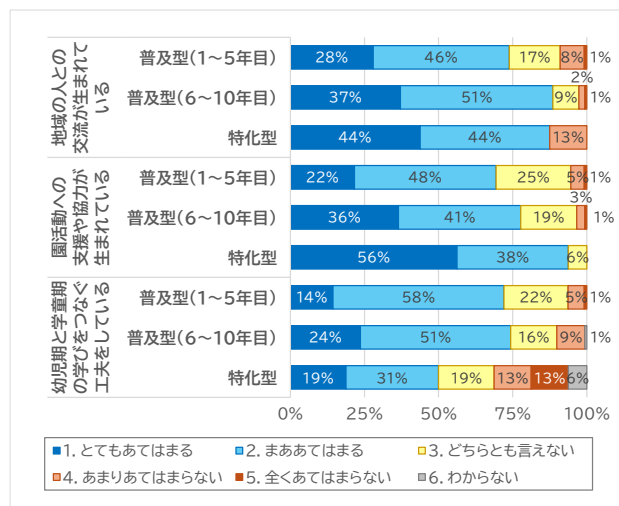


図表 3-3 [クロス集計]保護者の様子(SA)

④ 地域とのかかわりの状況

地域とのかかわりについては、「(子どもたちが園外に出ること)で 地域の人との交流が生まれている」、「(自治体や地域住民・保護者等による) 園活動への支援や協力が生まれている」が、「特化型」の認定園で比較的多い傾向となった。

他方で、「幼児期と学童期の学びをつなぐ工夫をしている」は、「特化型」の認定園では若干あてはまらない割合が多い傾向にあった。（図表 3-4）



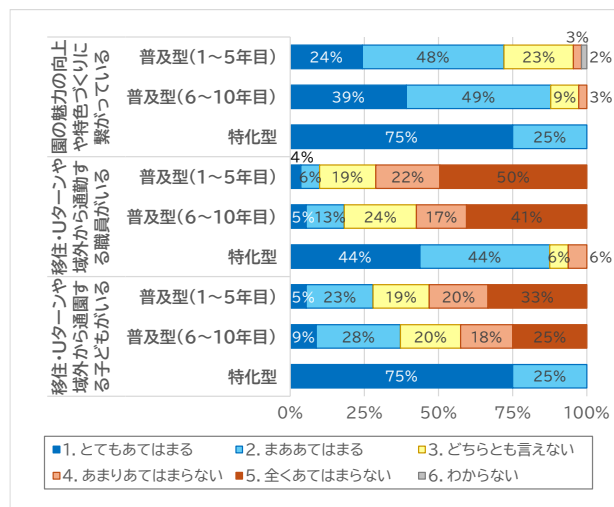
図表 3-4 [クロス集計]地域とのかかわりの状況(SA)

⑤ 園の魅力向上の状況

園の魅力向上の状況は、いずれも「特化型」の認定園では「とてもあてはまる」が最も多く、次いで「普及型（5～10年目）」が多い傾向にあった。

特に、「特化型」では、「移住・Uターンや地域外から通園する子ども」が全認定園でみられるとともに、「移住・

Uターンや地域外から通勤する職員」も約9割の認定園で見られるなど、移住促進等に大きく影響する傾向が見られた。（図表 3-5）

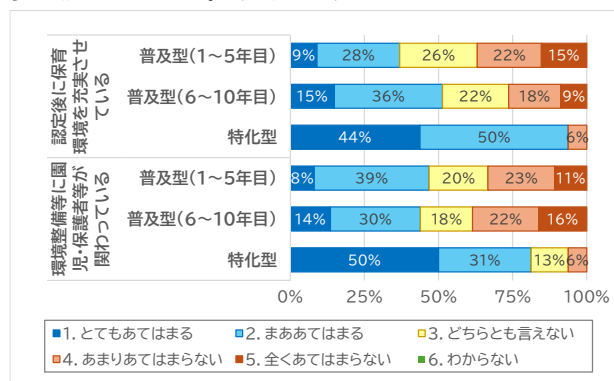


図表 3-5 [クロス集計]園の魅力向上の状況(SA)

(2) 保育環境の状況

① 保育環境の状況

保育環境の状況についても、いずれも「特化型」の認定園では「とてもあてはまる」「あてはまる」が際立って多い傾向にあった。（図表 4-1）



図表 4-1 [クロス集計]保育環境の状況(SA)

② 園庭の構成要素

園庭の構成要素は、全体的に認定の分類によっての差異は少ない傾向にあった。

他方で、「特化型」では「焚き火場・かまど」が約9割、「樹林・森林・里山」も約7割、「小川・池」は約4割の認定園にあり、森林・里山環境に園が立地している傾向が見られた。

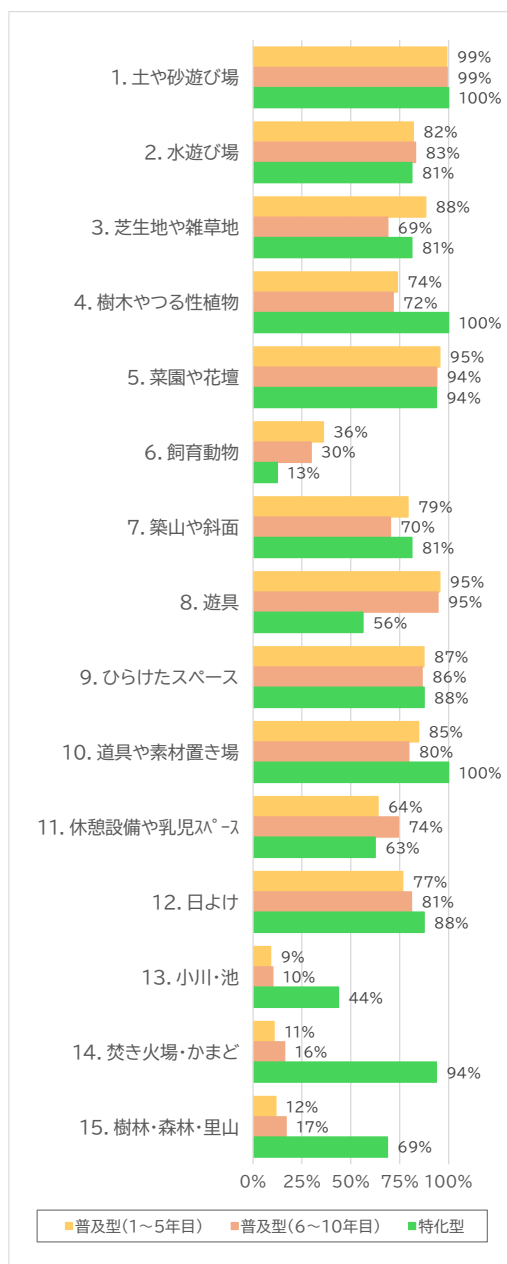
他方で、「特化型」では「遊具」や「飼育動物」が「普及型」と比較して少ない傾向にあった。（図表 4-2）

③ 活用している園周辺の自然環境

活用している園周辺の自然環境のうち、(A) 所有地・借受地としては、「特化型」の認定園では、「森林・里山」、「畑・田んぼ・果樹園」、「小川・池」が特に多い傾向に

あった。

その他の（B）活用している地域資源の自然環境は、「特化型」の認定園では「小川・池」、「森林・里山」が多く、所有地・借受地を有している影響もあり、「畑・田んぼ・果樹園」は少ない傾向にあった。（図表 4-3）



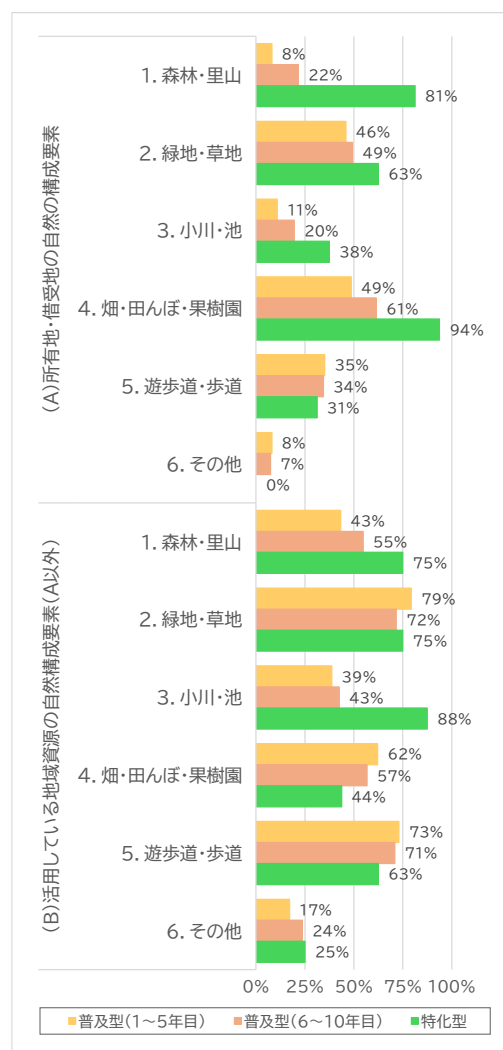
図表 4-2 [クロス集計] 園庭の構成要素 (MA)

④ 所有地・借受地の「森林・里山」の整備の考え方

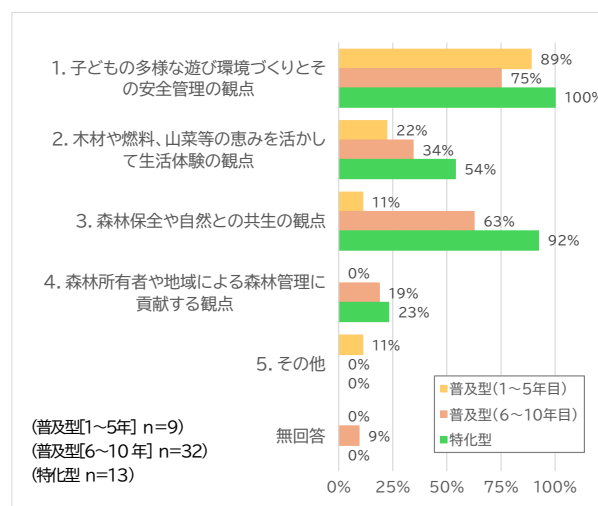
所有地・借受地の「森林・里山」の整備の考え方は、「森林保全や自然との共生の観点」は顕著に、また若干ではあるが「木材や燃料、山菜等の恵みを活かして生活体験の観点」は、「特化型」が最も多く、次いで「普及型（6～10年）」が多い傾向にあった。（図表 4-4）

⑤ 所有地・借受地の「森林・里山」の整備への関与主体

「森林・里山」の維持管理・整備への関与主体は、「特化型」の認定園は、関与主体が全体的に多く、特に、「保



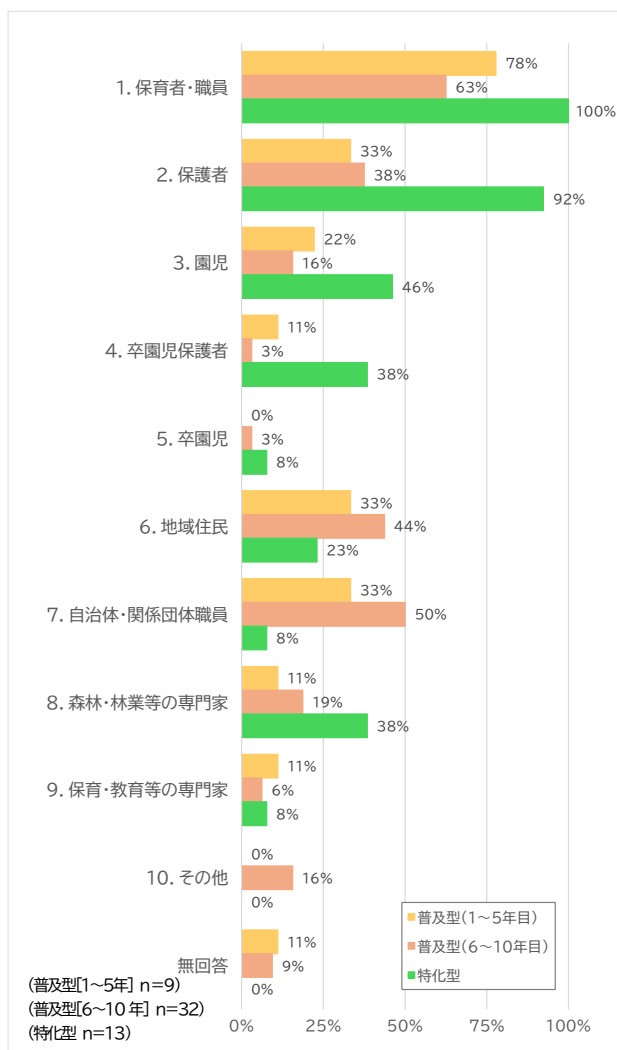
図表 4-3 [クロス集計] 活用している園周辺の自然環境 (MA)



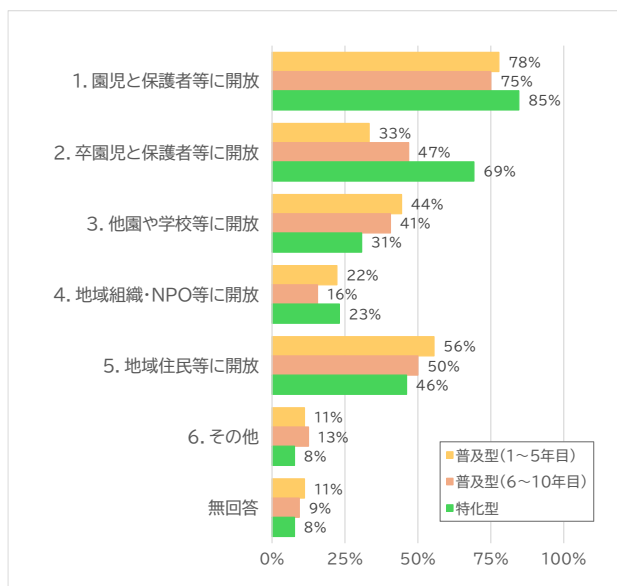
図表 4-4 [クロス集計] 「森林・里山」の整備の考え方 (MA)

育者・職員」、「保護者」、「園児」、「卒園児保護者」、「森林・林業等の専門家」が多い傾向にあった。

他方で、「普及型」の認定園では、「地域住民」、「自治体・関係団体職員」が特に多く、「普及型（6～10年目）」は相対的に多い傾向にあった。（図表 4-5）



図表 4-5 [クロス集計]「森林・里山」の整備への関与主体 (MA)



図表 4-6 [クロス集計]「森林・里山」の開放状況 (MA)

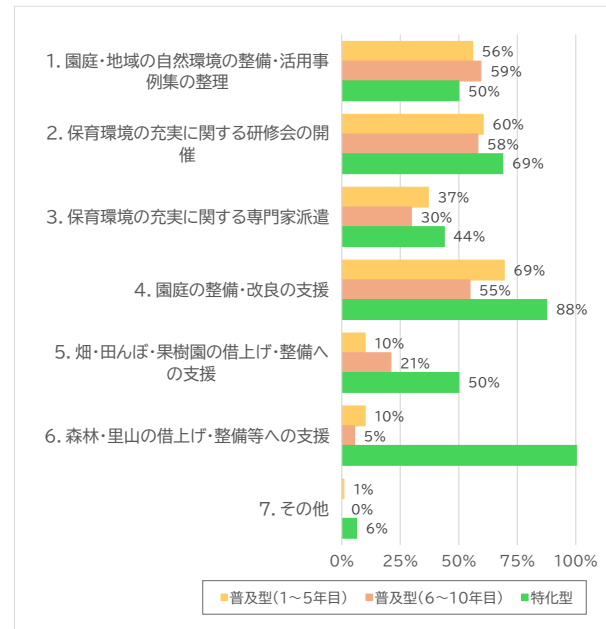
⑥ 所有地・借受地の「森林・里山」の開放状況

「森林・里山」の開放状況は、全体的に近似する傾向にあったが、「特化型」は「卒園児と保護者等に開放」す

るケースが比較的多く、「普及型」は「地域住民等に開放」、「他園や学校等に開放」が多い傾向にあった。(図表 4-6)

⑦ 希望する「保育環境」の充実の支援

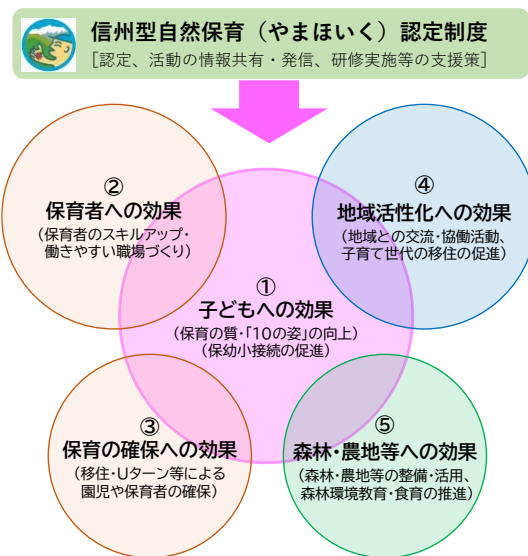
今後の「保育環境」の充実に向けて希望する支援は、「特化型」では「森林・里山の借上げ・整備等への支援」や「畑・田んぼ・果樹園の借上げ・整備への支援」、「園庭の整備・改良の支援」が多い傾向にあった。(図表 4-7)



図表 4-7 [クロス集計]希望する「保育環境」の充実の支援 (MA)

5. 総括

本調査により、「信州型自然保育（やまほいく）認定制度」及び関連支援策により、認定園は保育・教育の質の向上等の①子どもへの効果に加えて、特化型を中心に②保育者、③保育の確保、④地域活性化、⑤森林・農地等の多様な政策課題の解決に効果を感じている傾向にあった。



図表 5 多様な政策課題の解決への効果が感じられる「信州型自然保育認証制度」(イメージ)